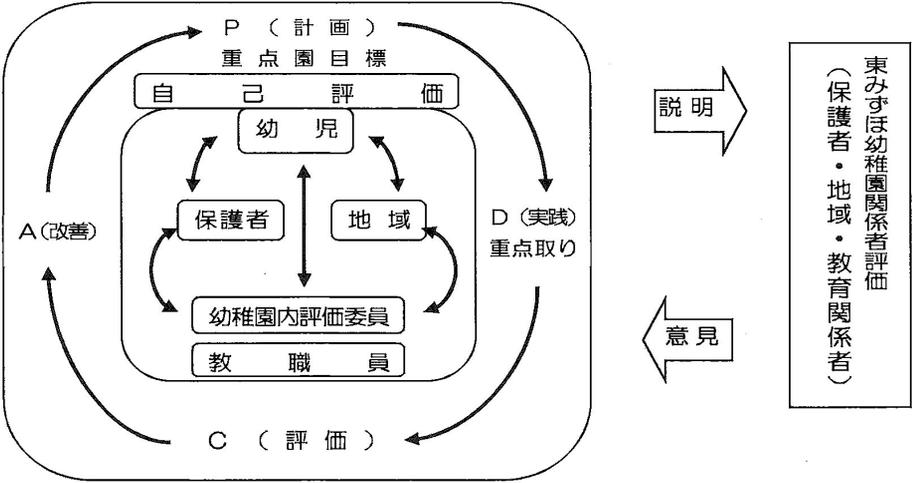


東みずほ幼稚園学校評価システム研究組織



総合所見

今年度はコロナウイルスの影響により登園自粛や行事の縮小・中止など感染拡大の徹底を図りながら教育活動を展開してきました。例年通りにならない部分も多くありましたが保護者の皆様には、本園の教育活動にご理解とご協力を頂きありがとうございました。

あいさつはコミュニケーションの基本であり、人間関係を円滑に豊かにするための手段です。教師も保護者の皆様にも手本となるような気持ちの良いあいさつを心掛けてもらいました。

今年度は「友だちづくりは、あいさつから」を重点目標に掲げ、日常生活の中で様々なあいさつを知り、繰り返しの中で子どもたちに定着しつつあるようです。引き続き保育者・保護者が手本となり習慣づけていきたいと思えます。

本園の教育課程には、4つのめざす子ども像があります。今年度もめざす子ども像に近づくために、年齢毎の子どもの姿からそれぞれにねらいを設定して教育を進めてきました。そして学期毎に、発達に合わせた教育がなされているのか？子どもが主体となり遊んでいるのか？振り返り課題を話し合い本園らしい教育を進めてきました。

幼児教育は環境を通して行う教育です。園の環境を十分に生かし天気の良い日の自由遊びは、外に出て砂遊び・リレー・ドッジボール総合遊具や遊具で遊び、夏から秋にかけては四つ葉のクローバや虫を見つけて遊ぶ姿もあり、幼稚園の広い園庭を活用してしっかり遊び、健康な体づくりにつながっています。

また、本園の教育の特色である交流は、例年通りとはいかないコロナ禍の中、春は堀尾のおじさんの田んぼで花や小動物に触れて遊び、秋には野菜収穫や稲刈り見学・収穫したお米で大きなおにぎりを作りおじさんと田んぼで食べました。発表会での、「おむすびころりん」はこの経験からうまれました。交流の中での遊びや体験を通しての発見や気づきが子どもたちの内面を育てているようです。今後も地域の方々の繋がりを大切に本園の教育力となっていくことで温かい心の育ちにつなげていきます。

また、異年齢交流を通して①子どもたちが相互に教え合う姿②子どもたちが学び合い・育ち合う姿③「人と関わる力」が育まれる姿が身に付いて来ています。

本園は「とっとり自然保育認証園」となっています。園内外の環境を生かした自然(動物)との触れ合い、栽培、また、地域の方と連携した栽培や収穫など、自然の美しさに心をうごかされ、子どもたちが主体となった取り組みは、豊かな育ちにつながっています。

今年は、大山青年の家の指導員さんの指導の下に、年長児親子で大山阿弥陀川の沢登りを体験しました。自然の中にいる子どもたちの笑顔はとにかく最高！！挑戦する顔・戸惑っている顔登りきった顔…どの顔も園ではでは見られない表情で貴重な体験をした一日でした。

安全教育として、交通安全教室、火災・地震等の避難訓練も計画的に実施しています。今年は洪水時避難計画をもとに避難訓練を実施しました。永江1区の東公園まで、年少・ひよこ組はバスに乗って、年長・年中組は徒歩で全員避難しました。

近年多くなっている自然災害も含め大切な命を守る安全教育も管轄の消防署、警察署と連携をとり実施しました。

東みずほ幼稚園は一人ひとりの子どもたちが安心して笑顔で遊びきれよう

- ① 子どもの心に寄り添うことで、園が安心した居場所となる。
- ② 教師間の共通理解を深め、子どもたちの育ちを保障する。
- ③ さまざまな人とのかかわりを通しての心の育ちを大切にする。
- ④ 思いを伝えあえる空間や仲間づくりを大切にする。

以上の点に留意しながら子どもたちの姿や背景を考慮し、何をどう育てるのか目標を持って教育につとめます。